網走ほんりゅう教組

第３８１号
網走教職員組合
〒090-0836
北海道北見市東三輪1丁目83-35
TEL0157(31)7551
FAX 0157(31)7559
１１月１５日

オホーツク合研報告

十月二十二日（土）、北見市民会館において、オホーツク合研が行われました。今年度も、午前中に講演、午後から分科会という日程で、高校の先生方と共に学び合うことができました。

◇講演

困難や聞きを抱える子どもたち
～その輝きと願い～

山崎　隆夫氏（都留文化大講師）

山崎先生は、元々小学校の教師だった事もあり、講演の内容は、小学校教師時代の実践が中心でした。休み時間、子どもたちとよく遊ぶ教師で、子どもたちの休み時間を保障するため、授業は、終了のチャイムと同時に終わるようにしていたそうです。できるだけ子どもたちと一緒に過ごし、子どもたちとのつながりを大切にしたいという山崎先生の思いが感じられます。そこには、「子どもたちの心の奥にある意識を理解し、そこと共感できたときに、子どもたちは変わり始める」という、先生の実践に裏付けられた信念があるのです。

また、組合の役員を降りて学校に戻ったとき、荒れた6年生の学級を担任したことも話してくださいました。その学級では、教師を悩ませるような問題が、毎日のように起きたそうです。大変な毎日だったそうですが、子どもたちのちょっとした変化を見過ごさないように心がけ、それを励みに子どもたちとつきあったそうです。子どもたちにレッテルを貼らず、ありのままの姿を受け入れるようにするというのが、山崎先生の、子どもたちと向き合うスタンスなのです。このような先生の子どもたちと向き合う姿勢が、子どもたちの心を開き、少しずつ変わっていったというお話に、聞いていた私たちも引き込まれました。具体的な実践を交えた先生の講演は、大変感動的でした。

◇分科会

第一分科会

「子どもの様子と学級づくり」の分科会には、午前中に引き続き、山崎先生も参加してくださり、レポートをもとにして、小学校と高校の様子を交流し合いました。レポートは小学校の一本でしたが、気になる子どもたちの様子や、保護者との関わり方など、小学校と高校の実態を交流することができました。

第三分科会

「小・中・高の授業づくり」の分科会は、高校の先生の参加が多く、たいへん盛り上がりました。小・中学校の先生も高校の先生も、授業づくりの視点が一致していて、子どもが参加できる授業づくりを大切にしているということが交流できました。

第四分科会

「特別支援教育」分科会では、二本のレポートをもとに話し合いが進められました。レポートの他にも、高校の先生から、LDの生徒が入学して、保護者との話し合いを進めているという話など、各校の悩みなども交流できました。

（第二分科会には網走教組からの参加者はいませんでした。）

夜は、毎年恒例の交流会が行われ、こちらも楽しく盛り上がりました。

全道の仲間とも学び合い

全道合研報告

十一月五・六日、かでる2・7（札幌）などにおいて、全道合研が開催されました。網走教組からは、「美術教育」分科会の司会者兼レポーターとして成田先生が、「学校と家庭の生活指導」分科会のレポーターとして若狭が参加しました。

午前中に行われたテーマ討論では、「あらためて問う！　北海道の学校・子どもたちの状況は？」のパネラーとして若狭が参加し、保護者と共に荒れた学級を見守った実践を報告しました。そのほか二名のパネラーの方からも、地域と学校を結ぶ活動の実践報告や、地域の力で子どもたちを見守り、育てていく活動の報告があり、学校だけ、家庭だけで子どもたちを育てるのではなく、学校、家庭、地域が力を合わせて育てていくことの大切さを学び合うことができました。

午後からの分科会は、会場が二か所に分かれて行われました。（かでる2・7、北農健保会館）生活指導の分科会には、九本のレポートが出され、全道の子どもたちの様子が交流されました。朝食を食べずに学校に来る子、友だちとつながりをつくるのが苦手な子など、様々な困難を抱える子どもたちに寄り添い、学級の中で育てていこうとする先生方の実践が数多く報告され、多くのことを学ぶことができました。

全道の先生方との交流は、大変刺激的で、元気ももらえます。今年度はもう終わってしまいましたが、来年は、もっと網走教組からも参加できるように、意識的に取り組んで行けたらいいなと思っています。（文責　若狭）

ゆきとどいた教育署名

夏から取り組んで来た署名も、そろそろ今年度の終わりの時期を迎えます。各地域で、職場で、奮闘されていると思います。

網走教組では、**11月28日（月）をしめ切り**とし、道教組に送ることにしていますので、あと1週間、ラストスパートです！

そして、ぜひ28日までに、本部に署名をとどけてください。